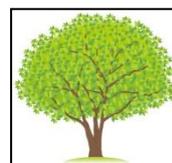


# 色々な枝や葉を 燃やしてみよう

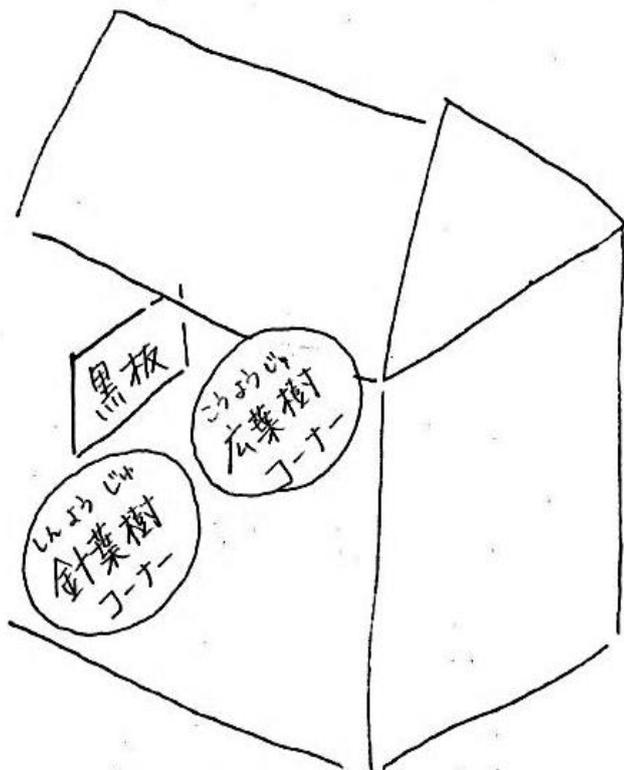


活動場所	実習棟、交流ひろば	自然の家にあるもの	薪（有料）、うちわ、焚き火台火、火バサミ、葉、枝
所要時間	1～1.5時間	利用者で用意するもの	新聞、マッチ、軍手（ゴムの滑り止めのないもの）
人数	50名程度	活動時の服装	長袖、長ズボン（綿素材のもの）、軍手（ゴムの滑り止めのないもの）

針葉樹と広葉樹では枝や葉の燃え方が違います。例えば、針葉樹は火が付きやすく一気に火がいきわたります。広葉樹はじわじわ燃える傾向があります。この学びは理科の観点はもちろん、防災の視点からも価値のあるもので、災害時に火をつけたり、どのような組み方をすれば、火が起こりやすいかななどを体感したりすることができます。

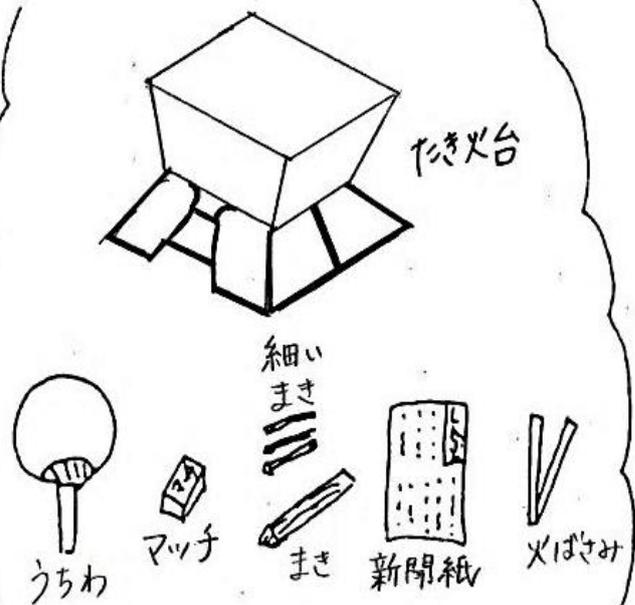
## 色々な木や葉を燃やしてみよう

～<sup>しんようじゆ</sup>針葉樹と<sup>こうようじゆ</sup>広葉樹のちがい～



日青れている時は 広場で、雨の日は <sup>じゅうりやう</sup>実習棟で活動します。

班にかしてもらえる道具



### とくに大切なこと

- ①葉がチクチクしている針葉樹と葉が広い広葉樹の燃え方のちがいをじっくり観察してみましよう。
- ②マッチに火をつける練習を一人一回はします。燃えがらは、たき火台の中に入れてましよう。
- ③まきに火がしっかりつくよう、班の友だちと考えながら実験をしましよう。

## 1. 学習内容

めざすもの（評価）	関連教科	学び（単元）
・ 燃焼の仕組みについて、空気の変化に着目して、間伐材の燃え方を多面的に考え、実践することができる。	理科	6年「ものの燃え方」
・ 針葉樹、広葉樹を調べることで森林の持つ力について自ら調査することができ、水質と森林の働きを結びつけることができる。	社会	4年「住みよいくらしをつくる」
・ 針葉樹と広葉樹の特性を実験を通して知ること、樹木の特性に興味をもち、そこから森林について様々な角度から探求しようとする。また、災害時における火おこしについても体験し、探究することができる。	総合的な学習	「環境」 「防災」

## 2. ポイント

### ア) 活動前

- ・ 長袖、長ズボンが望ましい。
- ・ 帽子、マスクを着用する。
- ・ ビニール、ナイロン素材の服は火の粉で穴が開くので綿素材の服にする。
- ・ 軍手は綿100%のものを用意し、ゴムなど引火しやすいものがないものとする。
- ・ マッチは学校で準備する。
- ・ 雨天の時は、かまどの組み方が変わる可能性があるので所員と相談する。

### イ) 活動中

- ・ マッチの練習は一人一本程度。燃えがらは焚き火台の中に入れる。
- ・ 燃料となる薪に火がついているかどうか確認する。その薪をもとに針葉樹、広葉樹の葉や枝を燃やす。
- ・ どのように組んだら火が起こりやすいのか、そして、針葉樹と広葉樹の燃え方の違いなど、子どもたちが十分に考えられ、進んで実験ができるような指導行うこと。

### ウ) 活動後

- ・ 最後に所員がふりかえりを行う。  
内容  
1. 針葉樹と広葉樹の燃え方について演示実験  
2. 針葉樹と広葉樹の役割  
3. 森林についての興味づけ
- ・ 道具は元の場所に戻す。ただし、焚き火台は熱いので指導者が片付けること。また、マッチの返却がされているか必ず確認する。

## 3. 安全対策について

--